

WGにおいて検討すべき事項(案)

検討事項

あるべき中長期的な持続可能社会の姿に到達するため、今後5年程度の間環境省において重点的に取り組むべき環境研究・技術開発の重点課題と5年後に到達しているべき地点(目標)を具体化する。

検討体制

- ・具体的な課題検討や今後の効率的な進捗管理のため、4つの領域ごとにWGを設置するとともに、必要に応じて横断領域WGを開催する。
- ・領域別WGにあっても、持続可能な社会の構築という全体俯瞰的な視点をもって重点課題を選ぶこととする。

検討時に留意すべき事項

(1) 課題の重点化・領域横断的アプローチ

○一層の重点化

限られた予算で効果的に研究・技術開発を推進するため、課題の重点化を徹底する。現戦略では重要課題51課題(うち重点投資課題20課題)を掲げているところ、新戦略では個別領域の重点課題3程度×4領域及び横断領域の重点課題5程度を想定。

○領域横断的アプローチ

個別領域の研究開発をばらばらに行うのではなく、複数領域に同時に寄与するWin-Win型の研究開発、複数領域間のトレードオフを解消する研究開発など、領域を横断する重点課題を明確に設定。(特に、あらゆる施策を動員して目標達成するとされている温室効果ガス2020年25%削減や、気候変動適応策に係るもの)

(2) あらゆる主体の参加・連携

○産学、他府省、地方との連携

環境省として重点的に実施すべき課題とともに、研究・技術開発を実施する他の主体との連携方策についても検討する。

○アジア等との連携

気候変動等の地球レベルの環境問題に対応するためには、アジア等における持続可能な社会づくりが重要。他国や国際機関等と連携した、これらに資する研究・技術開発、我が国の環境技術や制度の移転・人材育成等の効果的実施方策に係る研究等を検討する。

(3) 政策直結型研究の推進

先進的な研究・技術開発の動向を十分に把握しつつ、持続可能な社会の構築という政策目標に合致した研究・技術開発課題を検討する。

重点課題の例

- ・レアメタル・レアアースの技術・回収システムの構築と社会実装
- ・アジア等の各国の実情にあった廃棄物適正処理システムの提案と技術移転
- ・効率的エネルギー回収技術等のシステム化と技術移転(②と③)

①～④<全領域横断的>

- ・持続可能な社会への転換方策に係る総合的研究
(環境政策実施による経済活動への影響研究
資源価格変動等の経済情勢変化が環境に及ぼす影響の研究
環境保全と地域経済の発展に関する研究 等)
- ・地球空間・資源の戦略的利用と保全研究
- ・リスク論(分野横断的なもの)
- ・アジア等の持続可能社会づくり(分野横断的)に係る研究

- ・生物多様性の現状・変化状況の解析・予測
- ・外来生物防御システムの構築
- ・絶滅危惧種の保全策
- ・面源対策等の効果的な水域汚濁負荷削減手法と評価方法の構築
- ・水環境における生物多様性の評価手法等の研究

③循環型社会

④自然共生型社会

②と③

- ・3R・エネルギー回収の高度化技術(高効率ごみ発電等)の開発(①も関連)
- ・廃棄物系バイオマス利活用推進研究

②と④

- ・気候変動の自然環境(生物多様性、水循環)への影響予測
- ・気候変動適応策の精緻化・具体化

②脱温暖化社会

- ・2020年25%削減実現のための低炭素技術(再生可能エネルギー、次世代自動車、既存住宅・オフィスの省エネ化、炭素貯留技術等)の開発と爆発的普及のための社会システム構築研究
- ・アジア地域等を含めた低炭素社会移行シナリオの提言
- ・アジア地域等を含めた気候変動影響予測の高度化
- ・気候変動適応策の精緻化・具体化

①と③

- ・3R・エネルギー回収の高度化技術(高効率ごみ発電等)の開発(②も関連)

①と②

- ・環境汚染対策と温暖化対策の双方に資するコベネフィット技術の研究・開発
- ・風力発電等による低周波音の影響に関する研究
- ・温暖化による人の健康への影響に係る研究

①安全が確保される社会

- ・他の領域に係る問題の増大又は新技術の開発・普及等に伴って発生しうるリスクの評価・低減策等に係る研究(①と②、①と③等)
- ・化学物質等の環境リスクの評価や低減対策等に係る研究
(トキシコゲノミクス等リスク評価手法の革新と改善
東アジアにおける広域大気汚染の研究等汚染や影響のメカニズムの解明と総合的評価
影響が未評価の物質に係る研究
エコチル・PM2.5等評価済みの物質の再評価に資する研究
ナノ物質等リスク低減技術の開発 等)

検討体制とスケジュール

<検討体制>

環境研究・技術開発推進戦略専門委員会

<検討内容>

- ・戦略全体の枠組みの検討
- ・横断領域の重点課題の例示(詳細は各領域WG及び横断領域WGで検討)
- ・各領域共通事項の推進方策の検討
- ・各WGからの報告を受け、戦略全体を取りまとめ

方針指示 ↓ ↑ 報告

4領域ごとのWG

<検討内容>

- ・専門委の議論に基づき、横断領域、個別領域の重点課題を検討
(横断領域は専門委の例示を踏まえて頭出しし、詳細は横断領域WGで検討)

<構成>

- ・基本的に現戦略フォローアップ時と同様とし、必要に応じて外部有識者へのヒアリング等も行う
- ・省内関係部局も参画

↓ 適宜メール等で情報共有・調整 ↑

横断領域WG(各領域WGの議論を踏まえて適宜設置)

<検討内容>

- ・各領域WGの議論をベースに、横断領域の重点課題を検討

<構成>

- ・各領域WGから1～2名の検討委員に参画いただく
- ・省内関係部局も参画

<スケジュール>

第8回(H21.12.25)

- ・改定の方向性、検討体制議論

第9回(本日)

- ・改定の方向性、検討体制決定
- ・領域別WGへの指示事項決定

H22.3～4

- ・WGの結果フォロー
- ・領域共通事項の推進方策

H22.5頃
取りまとめ
(総政部会
から答申を
いただく)

H22.2～H22.4頃

- ・横断領域課題頭出し、フォロー
- ・個別領域課題検討

H22.2～H22.4頃

- ・横断領域課題検討

参考: 第4期科学技術基本計画策定スケジュール(予定)
(総合科学技術会議基本政策専門調査会資料より)

- ・H22.6頃 基本方針案決定
- ・H22年内 計画答申
- ・H23年3月 閣議決定